

平成 22 年 3 月期第 2 四半期連結決算発表

平成 22 年 3 月期第 2 四半期連結決算は収益回復

当社グループは、原材料を含めたコスト低減に努力するとともに、生産性向上と研究・開発体制の強化、並びに積極的な新製品の市場への投入を推進してまいりました。前年同期は原油等諸資源の急激な上昇の影響で大幅に業績が悪化しましたが、今期は原材料コストアップに見合った製品価格改定の実施により、収益が回復いたしました。

食品部門は、イースト、パン品質改良剤、発酵液等の新製品提案を行うことにより、主力のイースト及びパン品質改良剤の出荷が前年同期を上回りました。また、総菜は昨年発売したシャキシヤキシシリーズが好調であり、粉末かんすい、マヨネーズ等の出荷も堅調に推移し、増収となりました。

バイオ部門は、診断薬原料、受託飼料や養魚飼料が前年同期を上回ったほか器材の売上増があったものの、血清、培地、実験動物、各種受託試験の低調が影響し、減収となりました。

連結業績につきましては、収益の回復により、前期（平成 21 年 3 月期第 2 四半期）の落ち込みを取り戻し売上高は前年同期並みでしたが、増益となりました。この結果、売上高は 318 億 34 百万円、経常利益は 13 億 58 百万円、四半期純利益は 6 億 92 百万円となりました。

平成 22 年 3 月期 今期連結業績予想

平成 22 年 3 月期におきましては、食品部門は、販売子会社 2 社合併による新たな販売体制を構築し、ベーカリー市場のみならずベーカリー以外の市場への進出をさらに深耕させ食品事業の充実を図ってまいります。また、品質保証体制のより一層の強化を図り、「安全・安心」な製品づくりに努めてまいります。

バイオ部門は、診断薬原料を中心に遺伝子組換え技術を用いた新製品の上市を促進するとともに、食品のアレルゲン検査・残留農薬等の分析事業の拡大を推進してまいります。また、10月1日に養魚飼料事業を日清丸紅飼料(株)に譲渡し経営資源を動物実験関連ビジネスに集中してまいります。

さらに海外においては、海外子会社を活用し、欧米やBRICs諸国への拡販を図ってまいります。

連結業績予想につきましては、今後の原油等諸資源の価格動向及び両部門の市場環境は不透明な状況ですが、第 2 四半期累計期間の業績を踏まえ平成 21 年 5 月 12 日発表の通期業績予想を修正いたします。詳しくは本日発表いたしました「平成 22 年 3 月期第 2 四半期累計期間業績予想値との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

以上